

## 機械的血栓回収術で吸引カテーテル単独で末梢まで上げる SNAKE technique は有用である

木幡 一磨<sup>1)</sup> 赤路 和則<sup>2)</sup> 吉田 啓佑<sup>2)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中科

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳神経外科

血栓回収術において穿刺から病変部到達までに要する時間は可能な限り短縮したいが、現実的には限界もある。特に夜間緊急手術など一人で実施する必要がある場合などでは、極力簡素化した手技が望ましい。今回、大口径吸引カテーテルである Sofia Flow を用いて以前から報告のある SNAKE technique で、良好な転機を得た症例を経験しことから報告する。症例は 70 歳代男性、心房細動の既往がある。突然発症の左不全麻痺と構音障害により救急要請、当院搬送。精査の結果、右中大脳動脈閉塞に伴う心原性脳塞栓症と診断、血栓溶解療法に続き機械的血栓回収術を実施。右鼠径穿刺からアプローチしガイディングカテーテルを型通り右内頸動脈に導入した。ここで 6Fr Sofia Flow の先端を steam shape にて曲げ、そのまま押すと抵抗なく進みすぐに病変に到達。ADAPT により血栓回収し 2 pass で TICI 3 の良好な再開通を得た。昨今のデバイス供給減少事情もあり簡素化した手技で完結できれば、貴重な医療資源の有効活用や医療経済的にも優れていることから、もっと普及してもいい手技と考える。